

製品安全データシート

製品及び会社情報

会社名 株式会社MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ

整理番号 M150417

作成 : 2010年 4月 1日

製品名 大阪魂 燃料用アルコール

危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 2, 3,
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分 4, 5
	急性毒性（経皮）	区分 2,
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分 3, 4
	急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	区分 4
	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	生殖毒性	区分 2, 1 A, 1 A
	標的臓器／全身毒性（単回暴露）	区分 1（中枢神経系, 視覚器, 全身毒性） 区分 2（呼吸器系） 区分 3（気道刺激性、麻酔作用）
	標的臓器・全身毒性（反復暴露）	区分 1（中枢神経系、腎臓、肝臓）区分 2（血液）
	吸引性呼吸器有害性	区分 1、区分 2
環境に対する有害性	水生環境急性有害性（急性）	区分 2、区分 3

ラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語：

危険有害性情報：

警告

引火性の強い液体及び蒸気
飲み込むと有害のおそれ
吸入すると有害
皮膚刺激
眼刺激
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
臓器（中枢神経系）の障害

(気道刺激性) 呼吸器への刺激のおそれ
 (麻酔作用) 眠気またはめまいのおそれ
 長期または反復暴露による臓器 (中枢神経系、腎臓、肝臓) の
 障害
 飲み込み、気道に侵入すると生命に危険の恐れ
 水生生物に毒性。

物質の特定 単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名	メチルアルコール	イソプロピルアルコール
成分及び含有量	メタノール80~90% IPA10~20%	
化学式	CH ₃ CH ₂ OH	(CH ₃) ₂ CHOH
官報公示整理番号	(2)-201	(2)-207
C A S N o	67-56-1	67-63-0
国連番号	1130	1212
国連分類	クラス 3	クラス 3.2

危険物情報 可燃性液体

引火点 (20℃)	11	17.2
発火点 (℃)	470	455
爆発範囲 下限	7.72	2.0
(Vol%) 上限	36.5	12.0

物理/化学的物質

沸点 (℃)	64.65	82.4
比重 (25/4℃)	0.791	0.7863
融点 (℃)	-96	-89.5
蒸気圧KPa (20℃)	12.7	33.0
蒸気密度KPa (20℃)	1.11	2.07
溶解度 水	水溶性	水溶性
有機溶剤	可溶	可溶

暴露防止措置

管理濃度 ppm	1988-9-1	200	
許容濃度 日本産業衛生学会	1992-	200	1984 400
濃度 ppm ACGIH	1991-	200	1984- 400

応急措置 目に入った場合

- ・直ちに清浄な流水で15分以上洗眼し、医師の手当を受ける。

皮膚についた場合

- ・汚染した衣服を脱ぎ、触れた部位を多量の水で洗い流す。もし、皮膚に炎症を生じたときは医師の手当を受ける。

吸入した場合

- ・直ちに患者を空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、速やかに医師の手当を受ける。呼吸が停止している場合には人工呼吸を行う。

誤飲した場合

- ・多量の水又は食塩水を飲ませて吐かせ、直ちに医師の手当を受ける。患者に意識がない場合は、口から物を与えたり、吐かせようとしてはいけない。
-

火災時の措置

消火方法：小規模火災には水、粉末(ドライケミカル)、炭酸ガス、乾燥砂等を用いる。

大規模火災には耐アルコール泡(アルコール)及び水噴霧を用いる。

棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

周辺火災の場合は、速やかに容器を安全な場所に移す。

移動可能な場合は、周囲に散水して冷却する。

消火作業の際には必ず保護具を着用する

消火剤：粉末(ドライケミカル)、炭酸ガス、耐アルコール泡(アルコール)、乾燥砂が有効。

- 漏出時の措置
- ・風下の人を退避させる。漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立入りを禁止する。付近の着火源となる物を速やかに取り除く。作業の際には必ず保護具を着用する。風下で作業をしない。
 - ・少量の場合は、土砂等で吸着させて空容器に回収し、その後を多量の水で洗い流す。
 - ・大量の場合は、漏洩した液は、土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、液の表面を泡等で覆い、できるだけ空容器に回収する。回収は火花を発生しない安全なシャベルなどを使用するのが望ましい。
-

取扱及び保管上の注意

- 取扱い：
- ・火気、静電気、衝撃火花等による着火源の生じないように注意する。
 - ・蒸気の発散をできるだけ抑え、作業環境を許容濃度（暴露防止措置の蘭参照）以下に保つように努める。
 - ・容器を密閉し又は局所排気装置を設置する。
 - ・取り扱い後は手洗い、洗眼を充分に行う。
 - ・接触、吸入防止のために個人保護具を着用する。
 - ・作業は風上から行い、漏れ、溢れ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
- 保管：
- ・容器は直射日光を避け、冷暗所に貯蔵し、密閉して、空気との接触を避け、高温物を近付けない。
 - ・電気機器は防爆構造とし、機器類は全て接地する。

・酸化性物質、有機過酸化物等と同一場所に置かない。

その他、消防法等の法令に定めるところに従う。

暴露防止措置

管理濃度：許容濃度：1 ページ参照

設備対策：・密閉された装置、機器又は、局所排気装置を使用しなければ、取扱ってはならない。

・取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。

・状況に応じ適宜保護具を使用する。

保護具

呼吸用保護具：防毒マスク(有機ガス用)、送気マスク、空気呼吸器

保護眼鏡：ゴーグル型等、防災面

保護手袋：耐油性の保護手袋

保護衣：保護長靴、保護服、保護前掛け

物理／化学的性質 外観等：無色透明液体

沸点：蒸気圧：融点：比重：蒸気密度：は、1 ページ参照

溶解度：任意に可溶

危険性情報（安定性・反応性）

引火点：発火点：爆発限界：1 ページ参照

可燃性：引火しやすい

発火性（自然発火性、水との反応性）：なし

自己反応性・爆発性：蒸気は空気より重く、低所に滞留して爆発混合気体を作り易い。

粉じん爆発性：なし

安定性・反応性：通常の取扱い条件においては安定である。

その他：なし

有害性情報（人についての症例、疫学的情報を含む）

皮膚腐食性：皮膚腐食性に関する情報はない。

刺激性（皮膚、眼）：人では短時間暴露で、眼、鼻、喉に刺激作用がある。

感作性：粘膜の炎症や、湿疹様発疹が起こることが希にある。

変異原性：細菌を用いる変異原性試験（安衛法の基準に準拠）で陰性

急性毒性：メタノール暴露による急性中毒症状は、視神経障害、失明等を除けば酒等のアルコール飲料の飲み過ぎによる症状に似ている。人の致死量は経口摂取で 1 g/kg 以下或は $100\sim 250 \text{ ml}$ の飲み込みで死亡すると言われている。視神経に作用し、特に視神経や網膜に障害を与える。最初の徴候は眼が霞んで、光過敏症等の視力障害を示し、頭痛、めまい、耳鳴り、吐き気、嘔吐、腹痛、倦怠等を起こす。視力障害は一時的な事もあるが後に再発し進行して失明に至ることがある。重い暴露では意識不明、昏睡を経て死に至る。排泄が非常に緩慢な為に昏睡が 2~4 日間続くこともある。蒸気暴露では、 $50,000 \text{ ppm} \cdot 1\sim 2$ 時間で死亡すると言われている。

- 慢性毒性：200ppmを越える メタノール蒸気に長時間さらされていると、視神経傷害或は多発性神経炎を生ずる。視神経症状としては、視野傷害、眼痛、中心視野欠損等で失明を来すことがある。中枢神経系症状としては、頭痛、悪心、めまい、意識喪失が現れる。又メタノール中毒は代謝酸性症を起こし、激しい中毒は肝臓及び肝臓の障害を起こす。又気中濃度が200ppm以下であれば、産業現場における中毒は殆ど起こらない。
- 1000ppmで1時間作用すると、頭痛、眼の刺激及び疲労感を生じたと報告されている。
- がん原性：ラットの餌の中にメタノールを混合して経口投与し300 日後に腫瘍発生は認められなかった。犬に10,000ppm蒸気を100日間暴露したが腫瘍発生は認められなかった。
- 変異原性：マウスに対し、1 g/kgを経口投与した生色体異常試験において異常のあったことが報告されている。
- 生殖毒性：妊娠中の雌ラットに対する1日7時間、1~22日迄の暴露でTCL₀ 20,000ppm/7g であったことが報告されている。
- 催奇形性：マウスでの吸入催奇形性研究により、メタノール誘発脳ヘルニア発生率の濃度依存性が報告されている。

環境影響情報

- 分解性：BOD₅ 53.4 % 分解、10日間 62.7 % 分解、20日間 67 %
50日間 97.7 % 分解
- 蓄積性：報告例が見つからない。
- 魚毒性：マス TL_{mass} 8,000 mg/L
ウグイ LD₅₀ 17,000 mg/L ・24時間
毒性限界濃度 ショウトモス菌 66,000 mg/L
- その他：藻毒性 530 mg/L 緑藻毒性 8,000 mg/L

- 廃棄上の注意 ・取扱及び保管上の注意の項の記載による他、引火性の強い、有害性液体に関する一般的な注意事項による。
- ・廃棄する場合は焼却によって行い、方法は次のいずれかによる。
ケイソウ土等に吸収させて解放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。
焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。
- ・容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

輸送上の注意

陸上運送 消防法（第4類アルコール類）

- ・容器：危険物の規制に関する規則別表第3の2
- ・容器表示：アルコール類、危険等級Ⅱ、数量、火気厳禁
- ・積載方法：運搬時の容器積み重ね高さは3 m以下
- ・混載禁止：第1類及び第六類の危険物、高圧ガス

海上運送 船舶安全法（引火性液体）

- ・注意事項：火気厳禁

その他、引火性、有害性液体の一般的な注意事項による他、当データシートの取扱保管上の注意事項を参照のこと。

適用法令	消防法 第2条 危険物 第四類アルコール類（水溶性液体）		
	労働安全衛生法	：施行令別表第1 危険物（引火性のもの）	
		：第二種有機溶剤	
		UN番号	指針番号
	メチルアルコール	No, 1230	No, 131
	I. P. A	No, 1219	No, 129
	労働基準法	：低度有害物質	
	危険物船舶運送及び貯蔵規則	：引火性液体類	
	P R T R 法	：非該当品	

その他

（引用文献）

1. 化審法既存化学物質ハンドブック第5版	化学工業日報社
2. 安全衛生法化学物質	〃
3. 危険物総索引	日本海事検定協会
4. 労働安全衛生法化学物質総覧下	中央労働災害防止協会
5. 主要化学品1000種毒性データ	海外技術資料研究所
6. 既存化学物質要覧	〃
7. 道路輸送危険物のデータシート	（財）総合工学研究所
8. 有害物質データ情報	（社）日本海難防止協会
9. 産業中毒便覧	医歯薬出版
10. 許容濃度提案理由書集	日本産業衛生学会
11. 海難汚染防止条約	海文堂
12. 化学品法令集	化学工業日報社
13. 有害液体物質総覧	海洋環境法令研究会編
14. Material Safety Data	Denium'S Reference Collection
15. 化学商品	化学工業日報社

ここに記載された情報は現時点で正確なものと考えられますが、危険・有害性の評価は必ずしも完全なものではなく、新知見によって変わることがあります。又需要家の皆様の使用条件は弊社の管理外の事項となりますので、その取扱には十分注意して下さい。 以上